

## 國際労働會議の偽瞞を見破れ

昨年我々が断然と、國際労働會議そのものを否認し、資本家と政府の共同罪惡を、力強く社會に宣言してより、一年たつた。此の間において、我々労働者の深刻な階級意識が更に幾度も深化を遂げたことは云ふまでもない。然るに、この勢力に恐れれた資本家政府は、例の國際労働會議代表者派選期となつたいま、當然、資本主義國家のつき合に依り、政府代表者二名、資本家代表者一名、労働者代表者一名をゼネバへ派遣しなければならなくなつたのである。昨年においてさへ、我々の反対に逢ひ、見苦しい周章振りをばく露した經驗上、今度は方法を更へて、假面をつけて我々に臨んで来たのである。

それはかうだ「今年は一千万以上の組合にも、他の一千万以上の勤務者ある工場と同じに、代り選出権を與へる。」

成程そこには確かに、政府及び資本家の最も嫌な労働組合の名前が、ある程度まで承認された形式の下に取扱はれてゐるが、その労働組合を認めたと稱する政府は、依然として治安警察法一七條はもとより、あらゆる手段をとつて我々の團體運動を壓迫してゐるのである。即ち今度の選出方法は、我々労働者の勢力伸張にまどふた彼等の最も愚かな誤魔化し策を一手も出づるものでもない。故に我々は彼等が假面を利用し我々を欺かんとする無智な手段を、斷乎として排し、國際労働會議そのものを否認するものである。

我々労働者にとつて、ゼネバは上氣を鈍らす毒藥である。そこが各協同會議は、まさに我々を偽瞞し、彼等資本家の惡慾をますます順調にせんとする。全くふざけた、これ程馬鹿々々しきものはない會議である。

労働者諸君！我々は衷心より諸君の心に訴へる。自分自身の生命を資本家の手中より奪取せよ。そしてこの機會を利用せよ。資本主義社會の缺陷、及び國際労働會議の正體を明らかにするのはいまだ。